

個人投資家向け説明会

代表取締役頭取 深井 彰彦

2020年10月5日



群馬銀行レポート2020
統合報告書



東証第1部:8334

《目次》

I. 群馬銀行の概要

1. 群馬銀行について	… P. 1
2. 店舗ネットワーク	… P. 2
3. グループ会社一覧	… P. 3
4. 預金等の状況	… P. 4
5. 貸出金の状況	… P. 5
6. 利益水準の状況	… P. 6
7. 本業利益の状況	… P. 7
8. 与信費用の状況	… P. 8
9. 自己資本比率(連結)の状況	… P. 9
10. 業績見通し(2021年3月期)	… P. 10

II. 経営戦略

1. 中期経営計画	… P. 11
2. 計数計画(計数目標)	… P. 12
3. 3つの改革による経営プラットフォームの転換	… P. 13
4. ビジネスモデルの進化による高度な価値実現	… P. 15

III. 株主還元・株主優待

1. 株主還元の状況	… P. 17
2. 当行株価と主要指標	… P. 18
3. 株主優待制度	… P. 19

IV. 環境・社会・ガバナンス

ESGへの取り組み	… P. 20
-----------	---------

(参考)

新型コロナウイルス感染症への対応	… P. 24
------------------	---------

I. 群馬銀行の概要



1. 群馬銀行について

■ 群馬銀行の概要

(2020年3月末現在)

商号	株式会社群馬銀行		
本店所在地	群馬県前橋市		
上場	東証1部（証券コード：8334）		
設立	1932年9月（営業開始11月）		
代表者	代表取締役頭取 深井彰彦		
従業員数	3,030人（除く、臨時雇用）		
資本金	486億円		
発行済株式数	435,888千株		
総資産	8兆4,031億円（連結）		
純資産	4,880億円（連結）		
格付	JCR	:	AA
	R&I	:	A+
	Moodys	:	A3
	S&P Global Ratings	:	A-

■ 群馬銀行の歴史

1878年
(明治11年)

第三十九国立銀行の設立



1932年
(昭和7年)

群馬大同銀行として営業開始
(資本金580万円)



1948年
(昭和23年)

東京支店開設



1955年
(昭和30年)

群馬銀行へ名称変更



1970年
(昭和45年)

東証二部から一部へ



1988年
(昭和63年)

ニューヨーク支店開設



2016年
(平成28年)

ぐんぎん証券設立



2018年
(平成30年)

ぐんぎんコンサルティング設立



設立当時の本店
(前橋市本町)



旧本店
(前橋市本町)



現本店
(前橋市元総社町)

3. グループ会社一覧

リース・証券・コンサルティングなどグループ各社の機能を
最大限発揮し、お客さまの多様なニーズにお応えする。



お客さま

お客さまのニーズや課題を起点としたグループ一体でのサービスの提供

群馬銀行

提供するサービスの革新により
多様な金融ソリューションを展開

ぐんぎんコンサルティング
Consulting 個社ごとの課題に最適なソリューションを提供

ぐんぎん証券
株式・債券等多様な資産運用ニーズへ対応

ぐんぎんリース 株式会社
GUNGIN LEASING CO., LTD.
効果的な設備導入ニーズへ対応

SS ぐんぎんシステムサービス株式会社
Gungin System Service Co., Ltd.
システム化による生産性向上を支援

個社の枠を超えた連携により
高度な価値を実現

スカイオーシャン・アセットマネジメント
コア & サテライト運用戦略により
資産形成を促進

株式会社 **群銀カード**
決済多様化やキャッシュレスを実現

フィंकロス・デジタル
デジタル技術により銀行業高度化を牽引

群馬財務(香港)有限公司
アジア進出企業をサポート

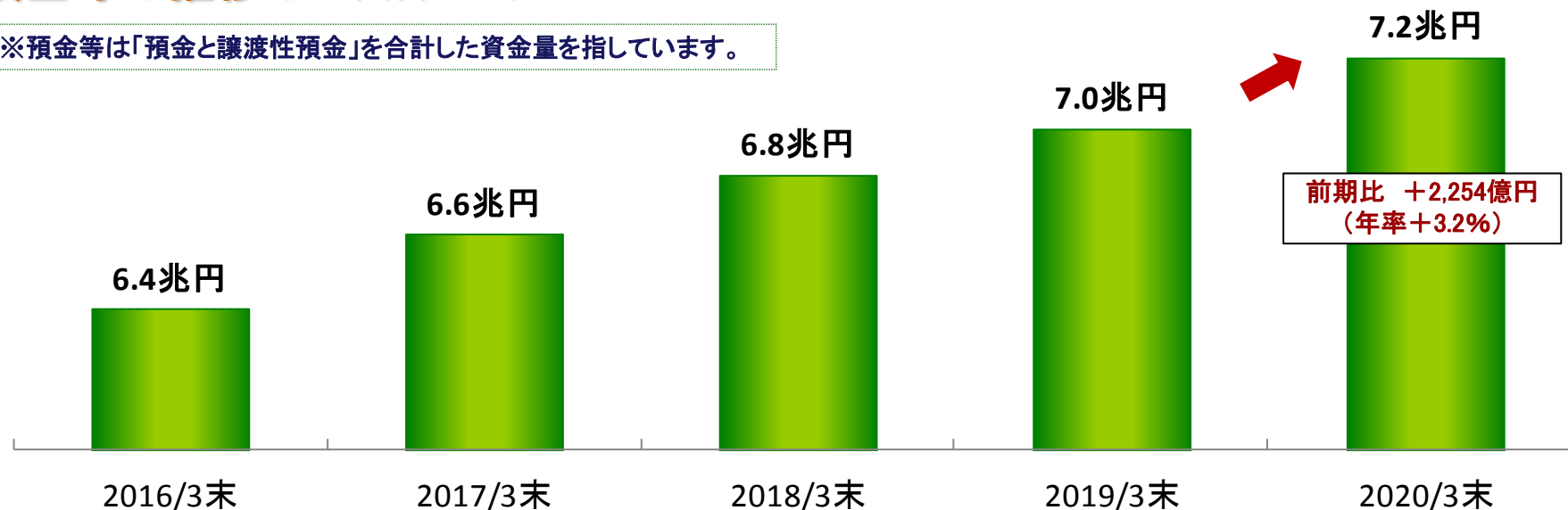
群馬中央興業株式会社
運送・保守により銀行インフラを支える

群馬信用保証株式会社
住宅や車などお客さまの夢をアシスト

4. 預金等^{*}の状況

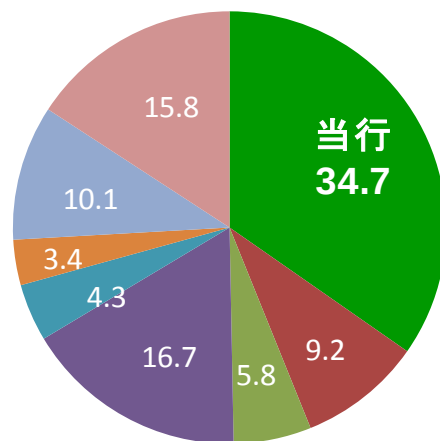
■ 預金等の推移 (2020年3月末ベース)

※預金等は「預金と譲渡性預金」を合計した資金量を指しています。



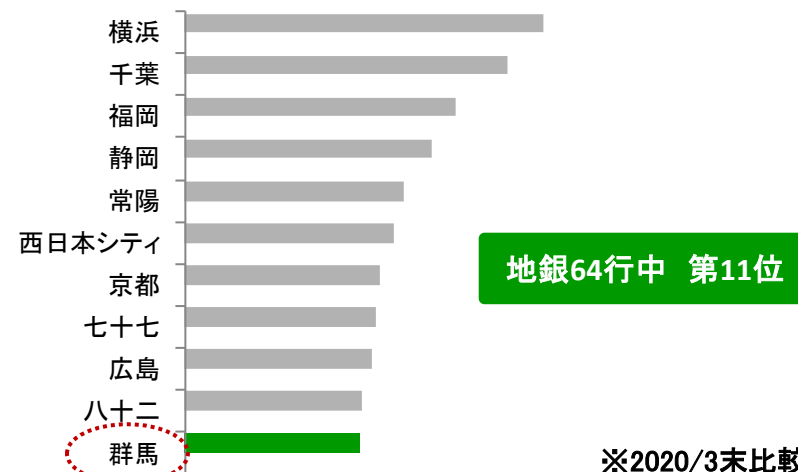
■ 群馬県内の預金シェア (2019年3月末ベース)

- 当行
- 大手行・その他地銀
- 第二地銀
- 信用金庫
- 信用組合
- 労金
- 農協
- ゆうちょ銀行



出所: 金融ジャーナル増刊号「金融マップ」資料2020年度版

■ 預金等残高の地銀比較

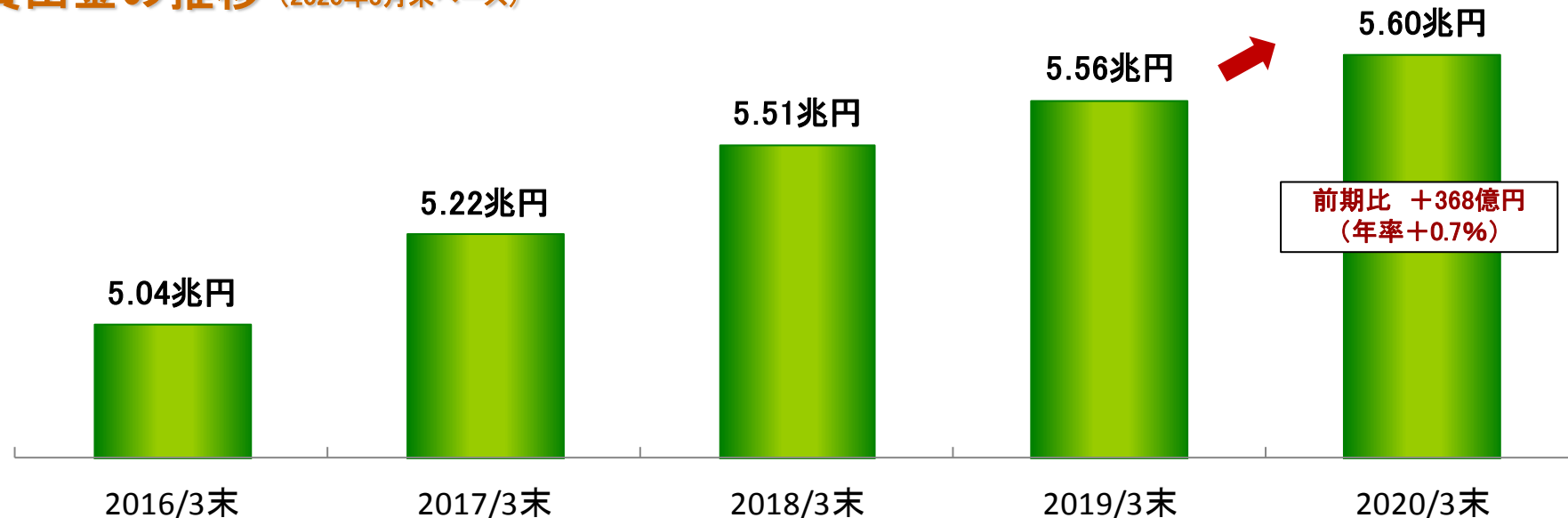


※2020/3末比較

Innovation 新次元

5. 貸出金の状況

■ 貸出金の推移 (2020年3月末ベース)



■ 群馬県内の貸出金シェア (2019年3月末ベース)

■ 当行

■ 大手行・その他地銀

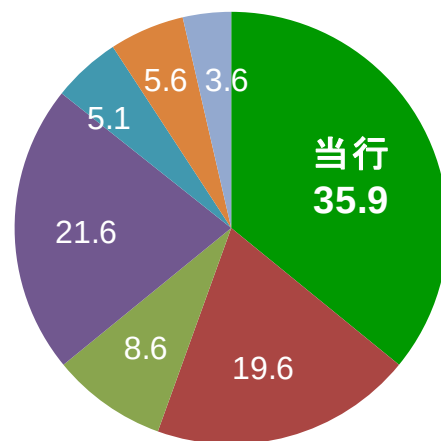
■ 第二地銀

■ 信用金庫

■ 信用組合

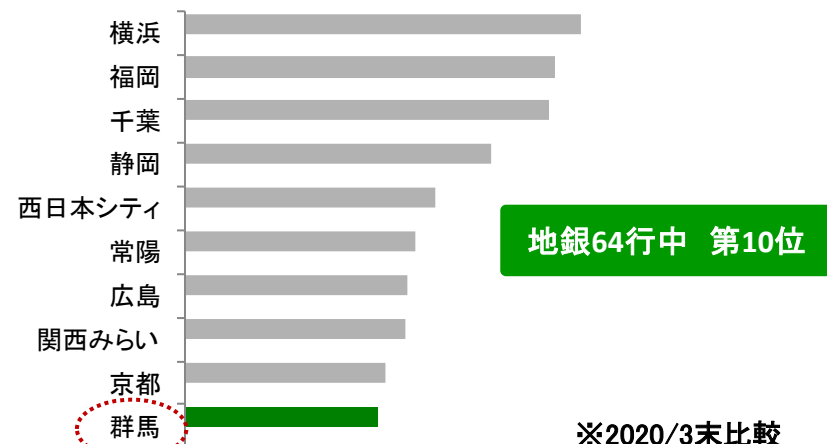
■ 労金

■ 農協



出所: 金融ジャーナル増刊号「金融マップ」資料2020年度版

■ 貸出金残高の地銀比較

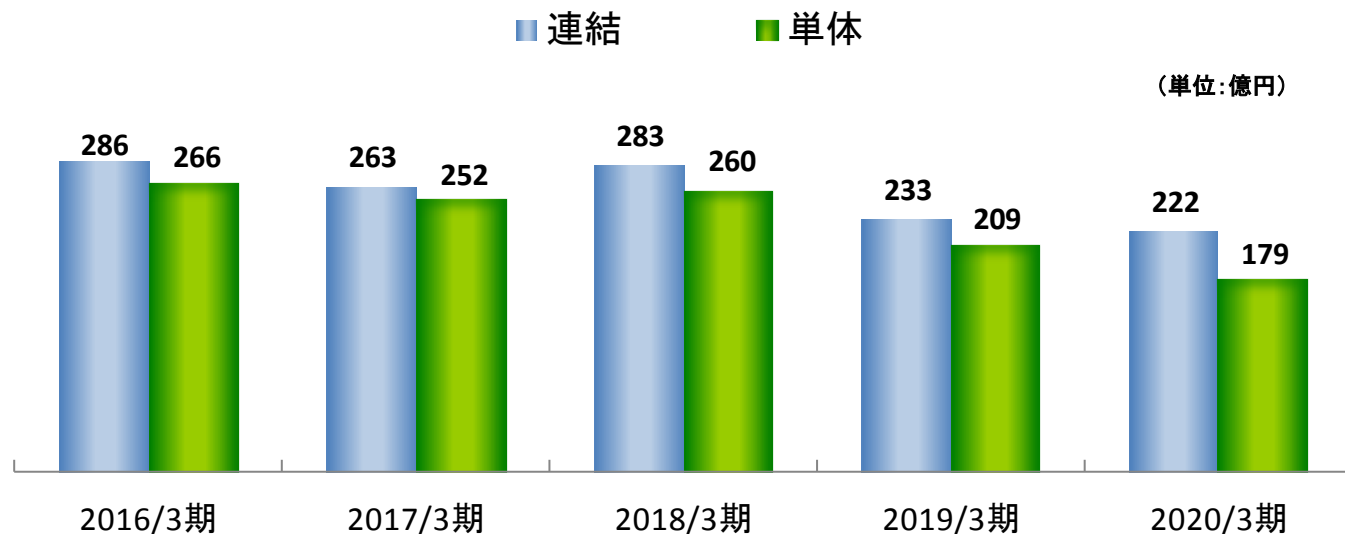


※2020/3末比較

Innovation 新次元

6. 利益水準の状況

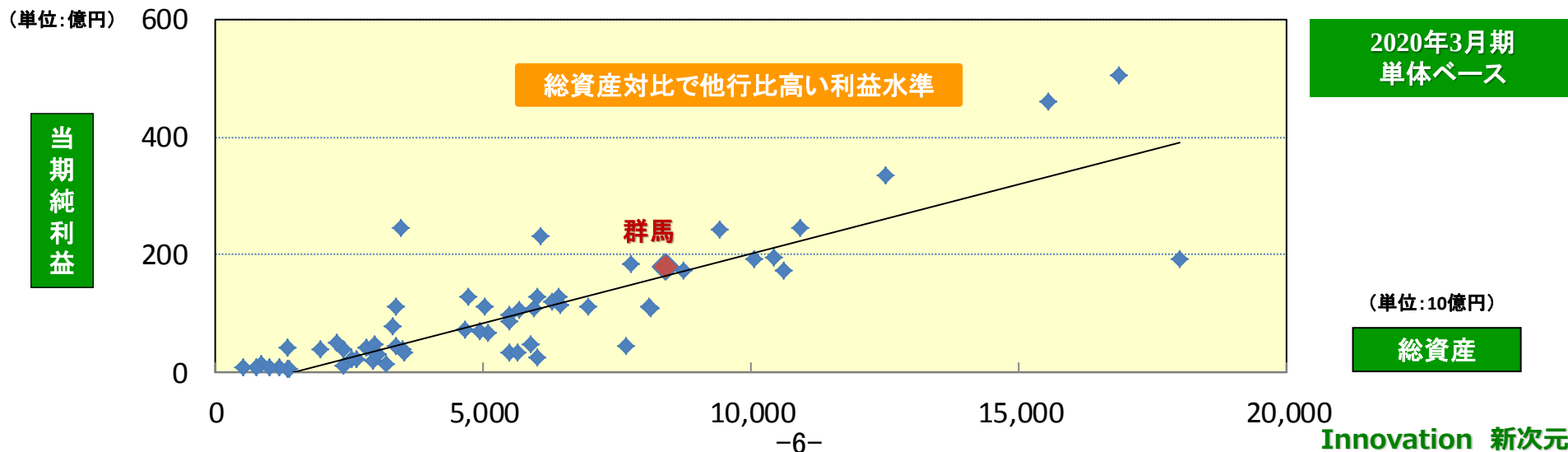
■ 当期純利益の推移



■ 利益の地銀64行比較



■ 総資産に対する利益水準 (地銀64行比較)

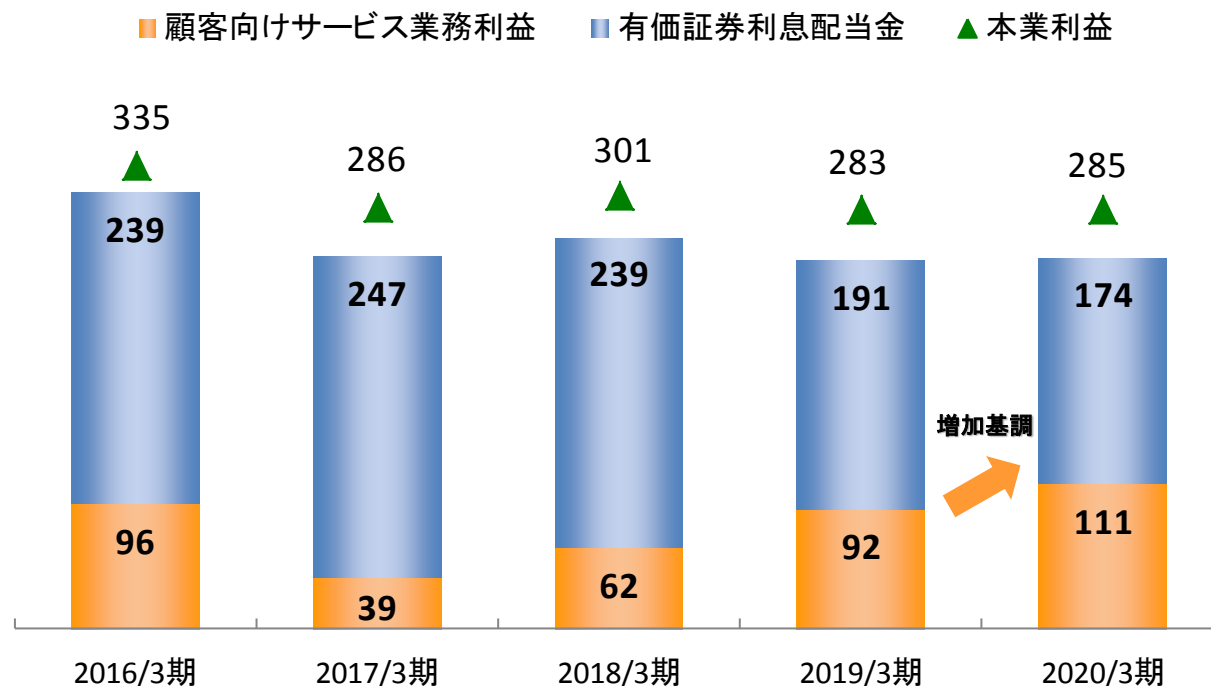


7. 本業利益の状況

■ 本業利益の推移（顧客向けサービス業務利益＋有価証券利息配当金）

顧客向サービス業務利益は一貫して黒字を維持

（単位：億円）



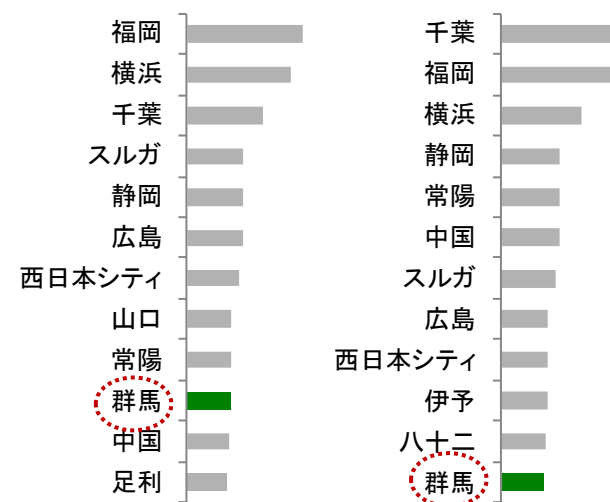
注) 有価証券利息配当金は投信解約損益を除いて算出しています。

■ 地銀64行比較

顧客向けサービス業務利益は第10位
本業利益は第12位

（顧客向けサービス利益）

（本業利益）



※2020/3末比較

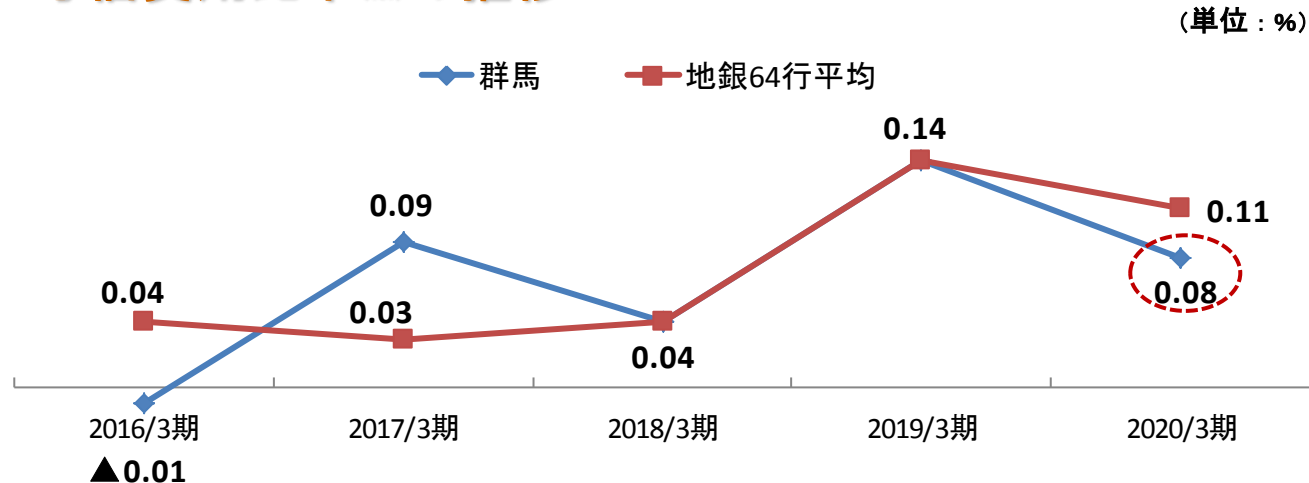
注) 他行比較の顧客向けサービス業務利益は、「貸出金利益＋役務取引等利益－経費」で算出。

※ 本業利益＝顧客向けサービス業務利益＋有価証券利息配当金（投信解約損益除き）

※ 顧客向けサービス業務利益＝貸出金利益（貸出平残×預貸金利回り差）＋役務取引等利益－営業経費

8. 与信費用の状況

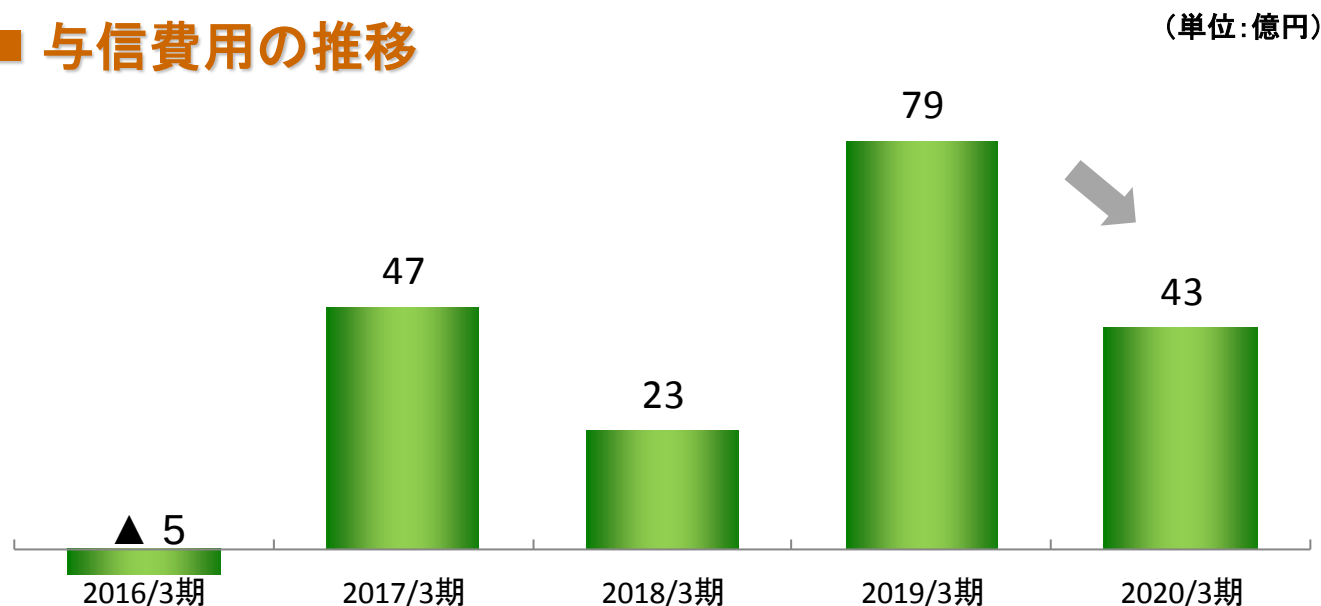
■ 与信費用比率^(※)の推移



(※)「与信費用比率」
＝与信費用÷貸出金平残

与信費用は貸倒引当金の計上や債権放棄など、不良債権の処理に要する費用。なお、与信先の業況が改善したこと等により貸倒引当金の取崩しを行った場合はマイナスの費用(利益)となる。

■ 与信費用の推移



2019/3期は県外大口先の破綻が発生し、与信費用が増加



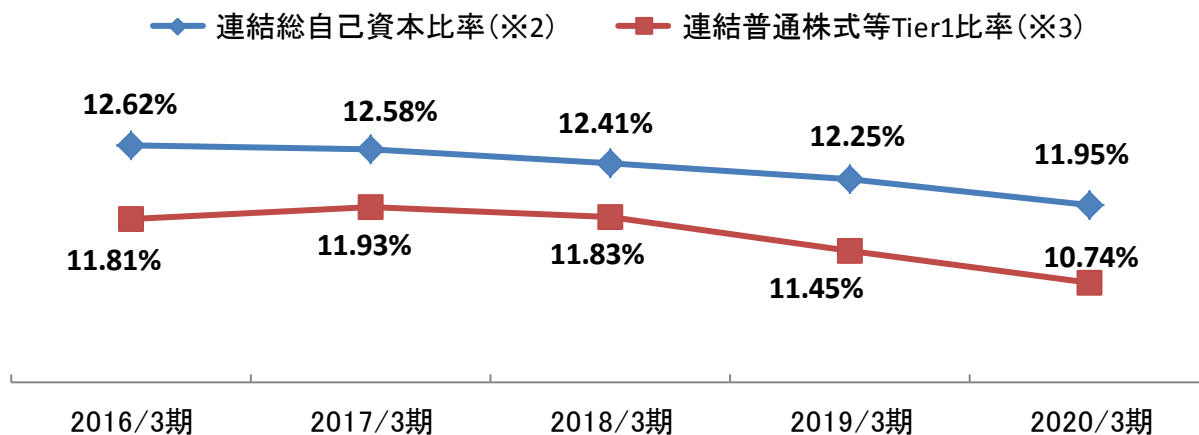
貸倒損失縮減策を実施

- ①中間管理の徹底
 - ・決算書の預貸金残高と実際残高の照合や定量面からの問題把握
 - ・試算表等による足元の業況確認等
- ②外部知見の活用
 - ・セミナーや外部調査機関の活用
- ③長期的視野に立った計画的な取組み
 - ・「大宮・京浜ブロックにおける新規・貸増し時の具体的指針」の徹底

9. 自己資本比率(連結)の状況

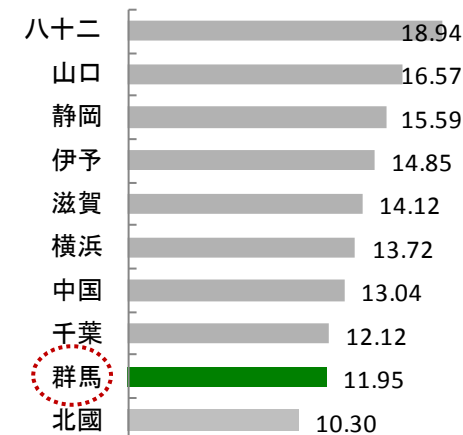
■ 自己資本比率の推移

自己資本比率は、国際統一基準行(※1)に求められる8%を大きく上回る



■ 国際基準行比較

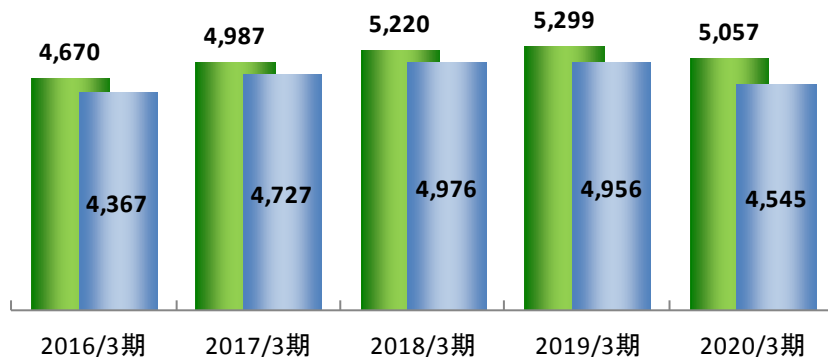
連結総自己資本比率は第9位



■ 総自己資本の推移

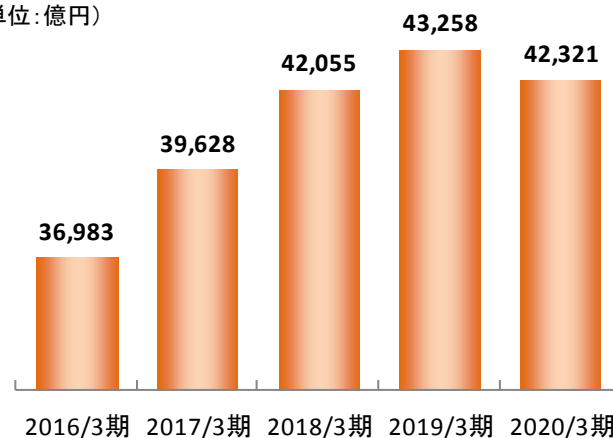
(単位:億円)

■ 総自己資本 ■ 普通株式等Tier1資本



■ リスクアセットの推移

(単位:億円)

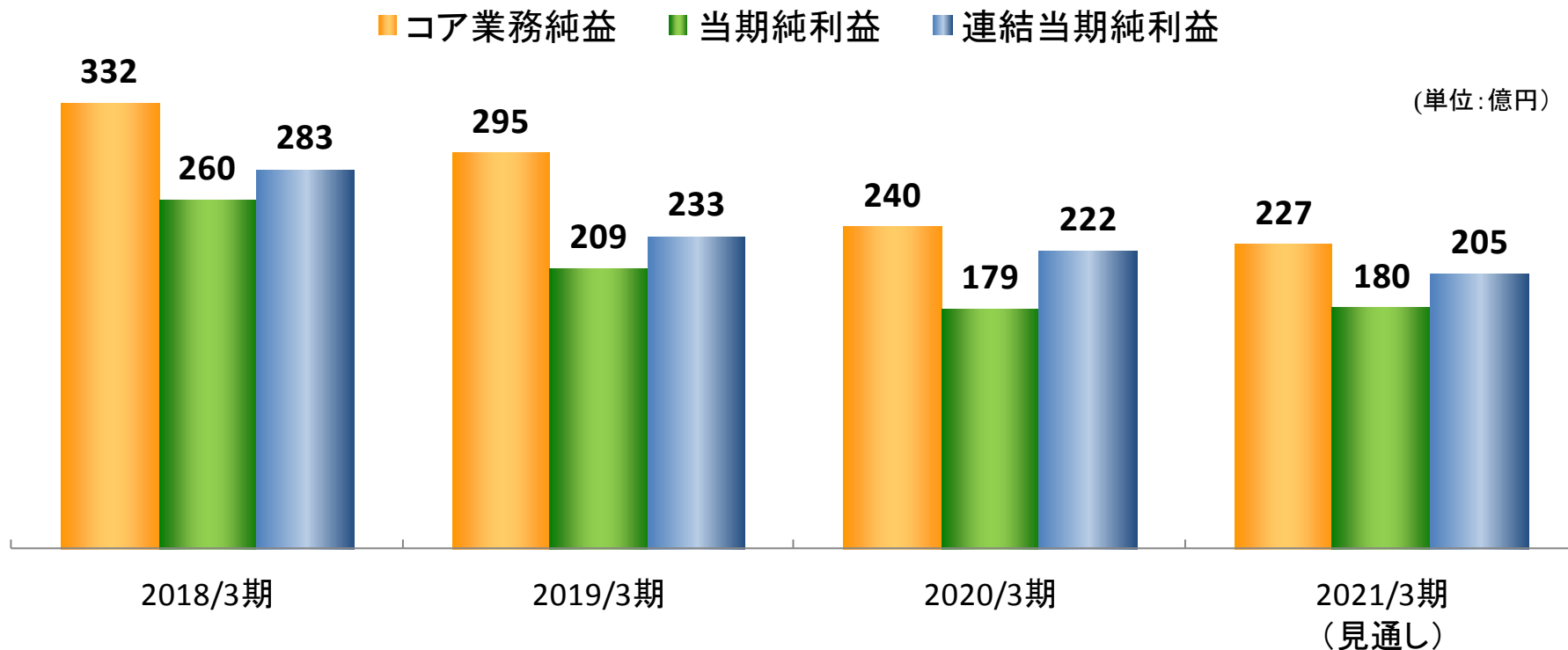


※2020/3末比較
(第2地銀除く)

- ※1. 規制上、海外に営業拠点を有する銀行に適用される基準。
- ※2. 総自己資本の額をリスク・アセットの総額で除して計算。
- ※3. 普通株式等の基本的な資本をリスク・アセットの総額で除して計算。

10. 業績見通し(2021年3月期)

最終利益は、連結205億円、単体180億円を見込む



- 「コア業務純益」は、貸出業務などの銀行の本来の収益力を表す利益。一般事業会社の営業利益に相当する利益。
- 「連結当期純利益」は、親会社株主に帰属する当期純利益。

Ⅱ. 経営戦略



1. 中期経営計画

■ 中期経営計画骨子

2019年 中期経営計画

Innovation 新次元

～価値実現へ向けて～

(2019年4月～2022年3月)

持続可能な地域社会の発展

未来へつづく豊かな生活

安定した収益と将来にわたる健全性



群馬銀行グループ

SDGs宣言

(2019年2月 制定)

めざす企業像

金融サービスの革新により、

お客さまニーズに応え、価値を実現する地域金融グループ



お客さまの成長支援



お客さまの資産増加

新次元

ビジネスモデルの進化による高度な価値実現



経営体質の強化



地域産業育成・事業承継



グループ総合力発揮

Innovation

3つの改革による経営プラットフォームの転換



プロセス改革



チャネル改革



人材改革

日々の業務における活動の目線やその行動様式（プロセス）、お客さまとの接点（チャネル）を戦略に適合させるとともに、
企業理念を根本とした行員のモチベーション向上を伴うワークスタイル・キャリア（人材）の変革に取り組む。

2. 計数計画(計数目標)

■ 計画最終年度における連結計数目標

項目	2019年3月期 実績	2020年3月期 実績	2022年3月期 目標
<収益性指標>			
親会社株主に帰属する当期純利益	233億円	222億円	240億円
非金利業務利益	167億円	171億円	200億円
RORA	0.54%	0.53%	0.5%以上
ROE (※長期目標)	4.4%	4.4%	5%以上
<効率性指標>			
OHR	63.2%	66.3%	65%程度
<健全性指標>			
総自己資本比率	12.25%	11.95%	12%台

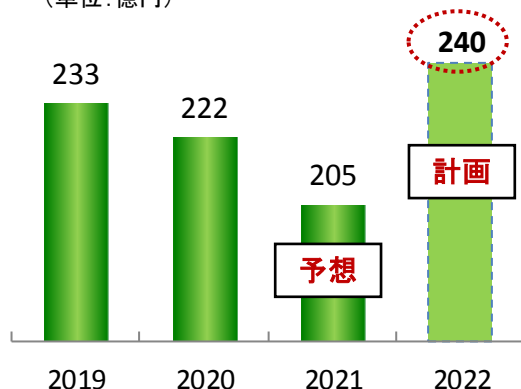
【RORA】:

リスクアセットに対する利益の割合であり、リスクに対する収益性を表す。

算定式=親会社株主に帰属する当期純利益÷リスクアセット

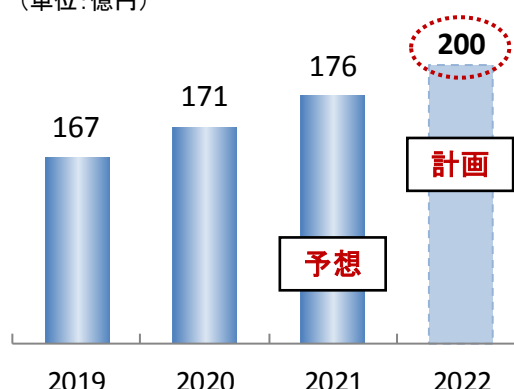
親会社株主に帰属する当期純利益

(単位:億円)



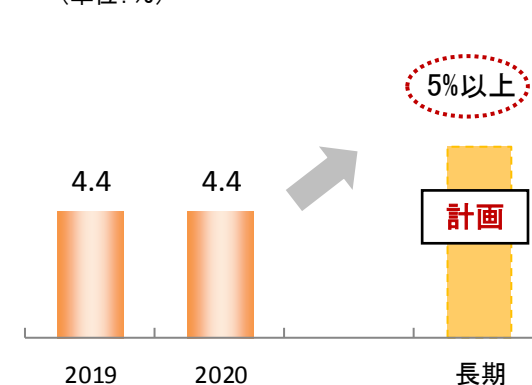
非金利業務利益

(単位:億円)



ROE

(単位:%)



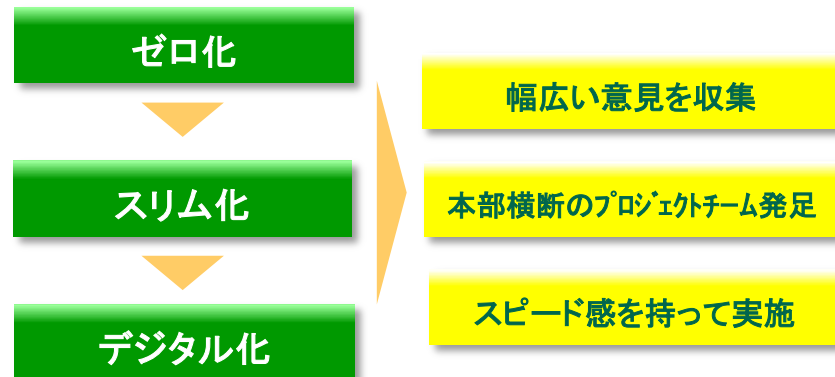
3. 3つの改革による経営プラットフォームの転換

① 仕事の質向上を目指したプロセス改革

■ 業務改革プロジェクト（ゼロ化・スリム化）



・ 4,901件 ⇒ 760案件に集約整理し実行中



（意見の集約）

「意見募集」（職場）
総数：4,901件

「案件化」（本部）
1,122件の案件に集約

「実現」
やめる・削る・代える
の観点で合理化

1,122件の案件のうち
対応可能：760案件

2020年上期までで
実施率84%

（業務量削減効果予測値）

2020年3月期：約126,275時間/年（累計）⇒ 71人分（※）の業務量

2022年3月期：約407,259時間/年（累計）⇒ 232人分（※）の業務量

（※）1人あたりの年間所定勤務時間7.5h × (245営業日-休暇11日)とした場合。

■ デジタルイノベーション強化に向けた取り組み

ミッション

- 非対面チャネルを拡充し、お客さまとの接点充実と圧倒的な利便性を実現
- 業務改革プロジェクトによってスリム化された業務や事務のデジタル化・レス化を推進
- 株式会社フィクロス・デジタルでの各種施策の検討

専門部署の設置

2020年6月に総合企画部に
「デジタルイノベーショングループ」を設置（総勢11名）

- ・ 営業部門やシステム部門から業務を移管集約し機能を強化
⇒ 強力な権限を幅広く持たせ、当グループがトップダウン型のリーダーシップを発揮できる態勢とする。



具体的な取り組み

群馬銀行アプリ刷新

AI/RPA/ワークフロー活用

モバイルPCへの業務集約

システム基盤整備

行内業務の効率化（業務改革ワーキンググループ）

フィクロス ⇒ デジタル技術により銀行業高度化を牽引

3. 3つの改革による経営プラットフォームの転換

② 創造力を発揮し、お客さまのお役に立てる行員を創出

■ 人事制度改革

- 専門人材の確保・育成に向けた新たな人事制度を導入。ITや市場部門・コンサルティングなど高度な専門性を有するスペシャリスト向けの処遇を新設。

⇒「エキスパート（行内向け）」・「プロフェッショナル（キャリア向け）」
⇒「プロフェッショナル」は報酬上限を設けず。

■ キャリアチャレンジ宣言（17/3期から導入）

- （目的）若手行員自らが主体的にキャリア形成を考え行動するためのサポート体制を構築。チャレンジ宣言者を専門分野へ配属。
- （計画）更なる宣言の充実と有効性の向上に向け、専門人材に関する説明会、座談会を実施。

（実績）（単位：人）

分野	17/3	18/3	19/3	20/3
法人コンサルティング	1	2	2	1
コンサルティング会社			4	1
個人コンサルティング	2	1	4	1
国際・市場関連	1	3	1	2
リスク管理・財務			1	2
合計	4	6	12	7

■ 働き方改革

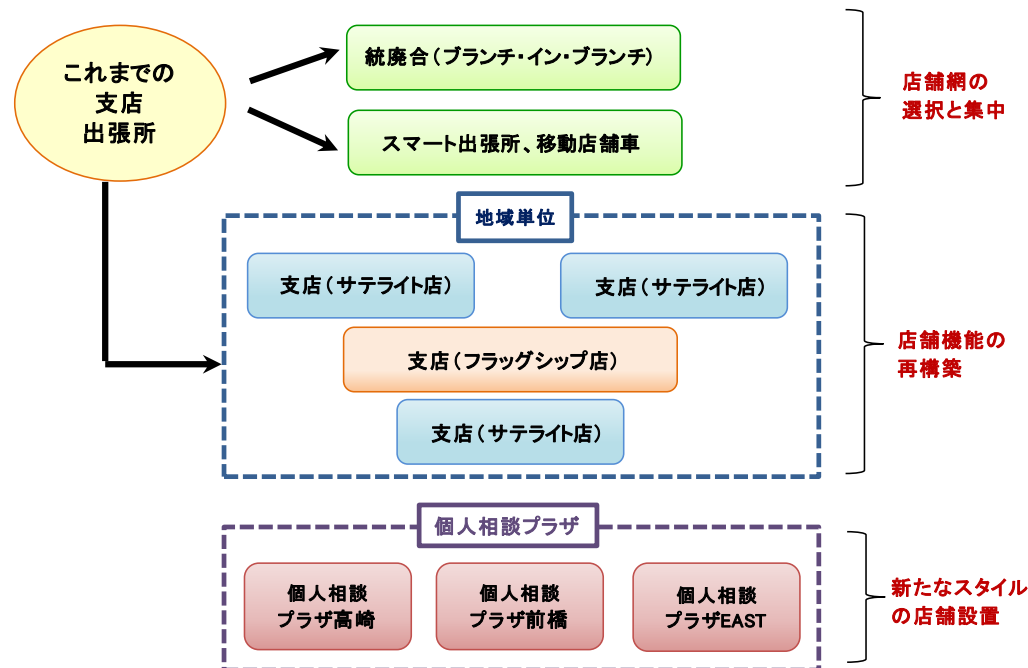
- 56歳以降（役職定年後）の職位継続を個別に認める。

所属	対象（職位等）
営業店	支店長、副支店長、統括次長、次・課長
本部	部長、副部長、室・グループ長（主任役以上）

- 職位継続しない者についても賞与メリットテーブルを引上げ56歳以降業務職のモチベーション向上に繋げる。

③ お客さまとの接点拡充のためのチャネル改革

■ 今後の店舗展開



■ 効率化計画

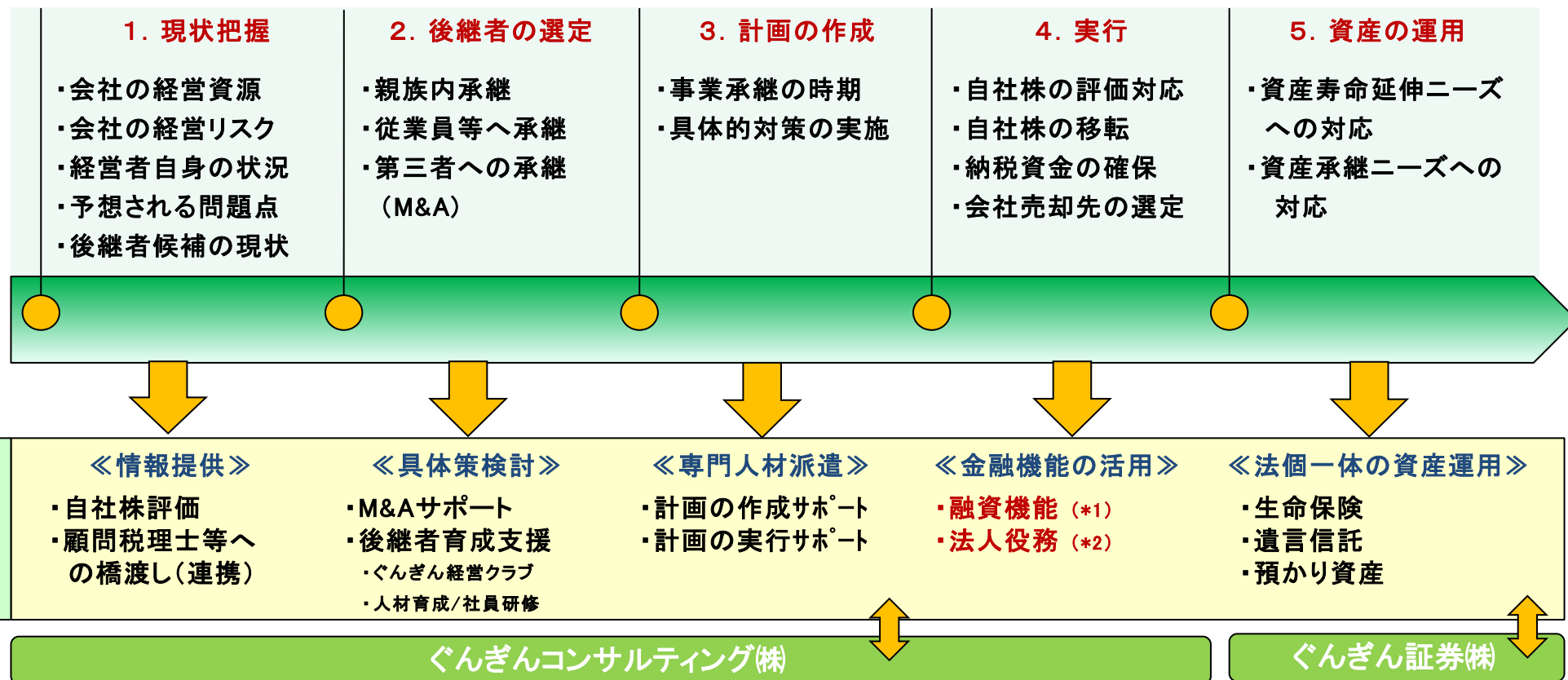
店舗戦略	店舗網の選択と集中	店舗機能の再構築
店舗形態	ランチ・イン・ランチ(*1)	フラッグシップ店(*2) (県内全地域)
捻出人員	中計期間中に130名の人員捻出	

(*1) 1つの店舗内に複数の支店・出張所を統合。

(*2) 地域の中核店舗。幅広い業務を行い、専門性の高い行員も配置。

4. ビジネスモデルの進化による高度な価値実現

■ 事業承継の進め方と当行のサービス



(*1) 融資機能—自社株買取り資金

個人への融資	後継者等が買取るケース
経営会社への融資	経営会社を買取るケース(金庫株)
新会社(持株会社)への融資	後継者が出資した新会社(持株会社等)を設立し買取るケース(事業性新規融資)
関連会社への融資	関連会社を買取るケース

(*2) 法人役務

- ・ストラクチャー付コベナントス融資
- ・M&A
- ・シ・ローン
- ・私募債
- ・ビジネスマッチング
- ・事業保険

4. ビジネスモデルの進化による高度な価値実現

■ お客さまの資産を安定的に増やしていく取組みの充実

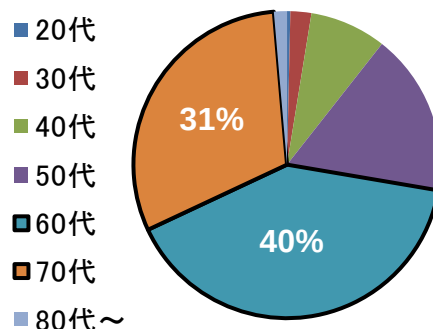
(単位: 億円、件)

資産寿命延伸ニーズへの取組み

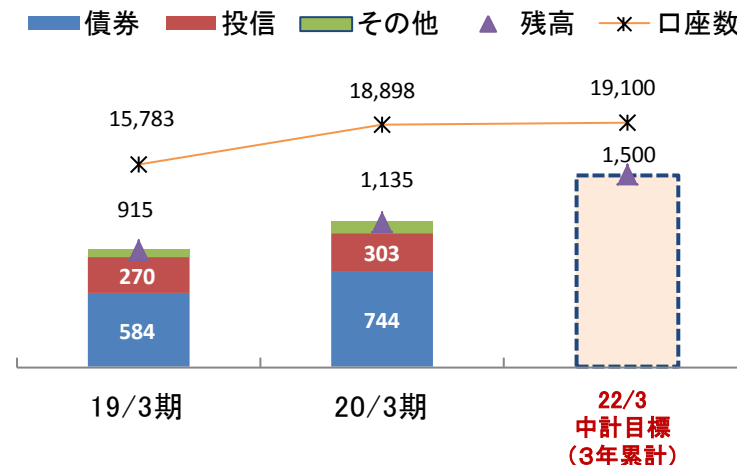
～ ぐんぎん証券との銀証連携で一体となり
お客さまのニーズに対応 ～

- 開業3年を経過し業績は順調に推移。
- 20年3月に県内5つ目の拠点を桐生市に新設。
(前橋、高崎、太田、渋川、桐生)

○顧客年代別
(ぐんぎん証券)



○預かり資産残高、口座数
(ぐんぎん証券)



遺言信託・遺産整理業務

○相談受付チャネルの拡充

休日営業の「個人相談プラザ」
に相談窓口を新設



幅広い相談ニーズに対応する
個人相談プラザ高崎

○本部専担者の増強

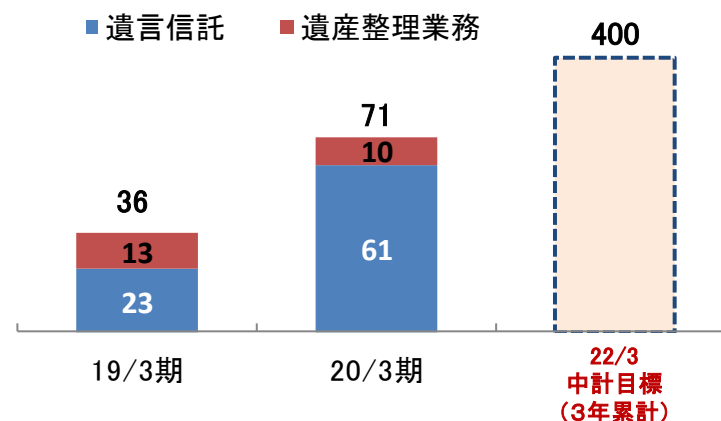
19/3末	19/9末	20/3末
4人	7人	9人

○営業店の支援

- ①研修の強化 ⇒WEB化で在宅勤務にも対応
- ②推進ツールの拡充
 - ・相続関連業務Q&A
 - ・属性ヒアリングシート、ニーズ喚起シート
 - ・遺産整理業務の手引き など

○件数実績

(単位: 件)



Ⅲ. 株主還元・株主優待

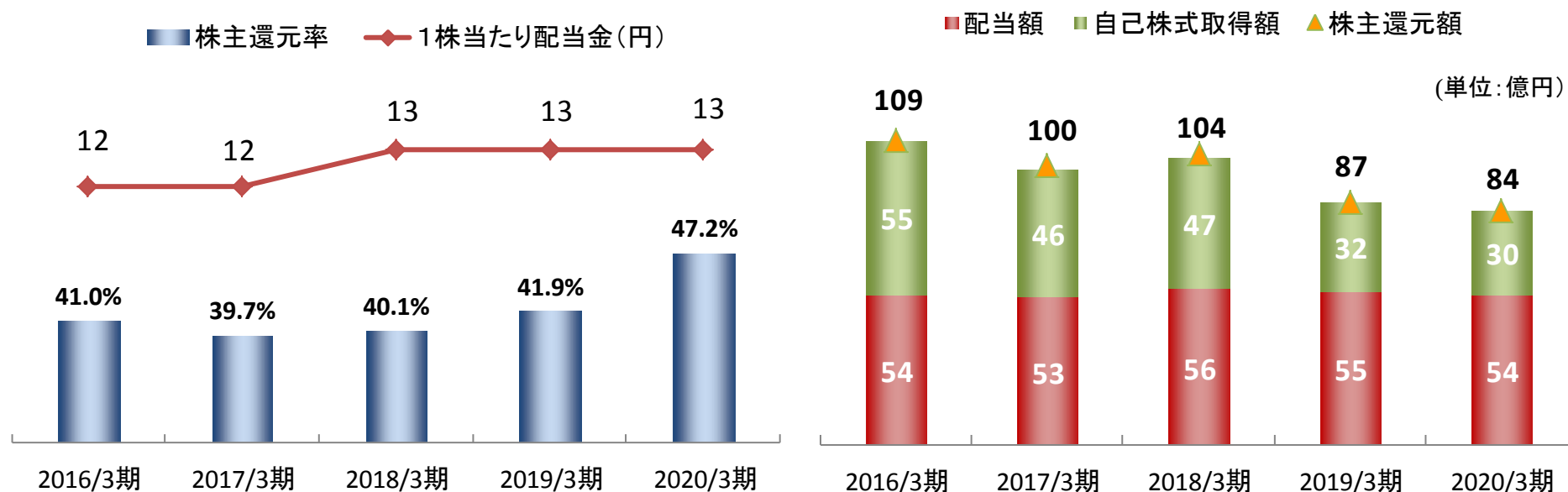


1. 株主還元状況

■ 株主還元方針

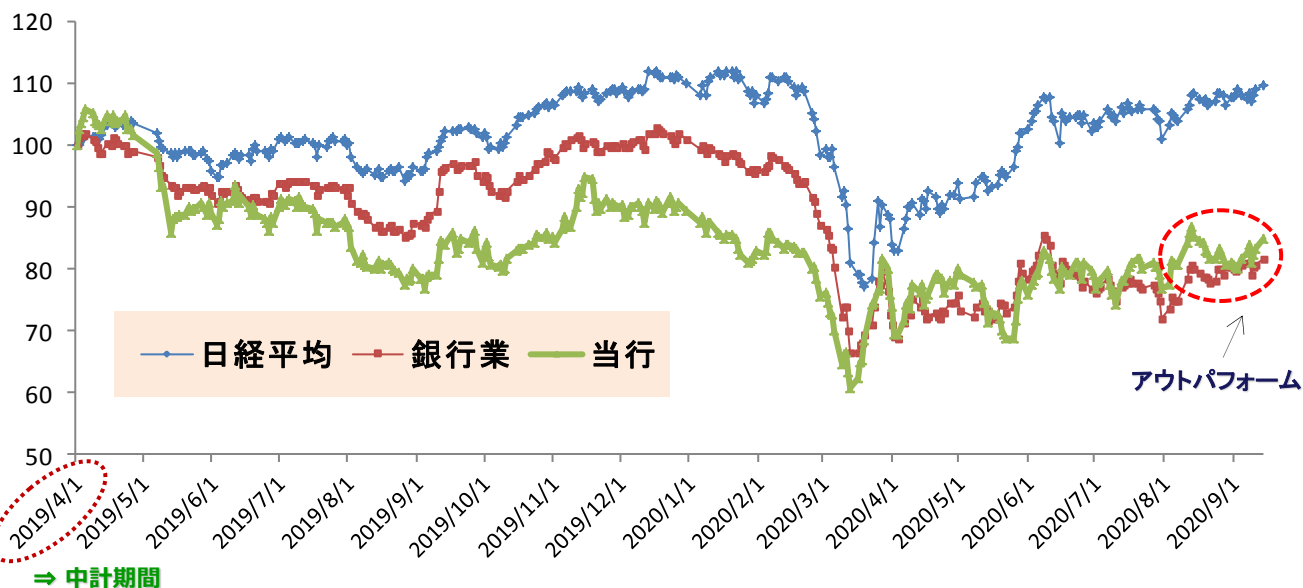
- 財務体質の強化に努めるとともに安定的な配当を継続する基本方針の下、業績連動型の株主還元を実施。
- 株主還元率は、当面、単体の当期純利益の40%目安。

■ 株主還元率等の推移



2. 当行株価と主要指標

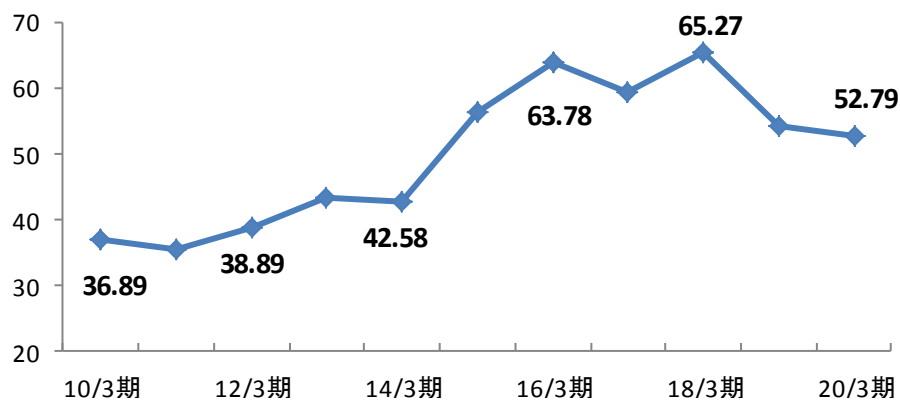
■ 株価の推移 (2019年4月1日～2020年9月14日)



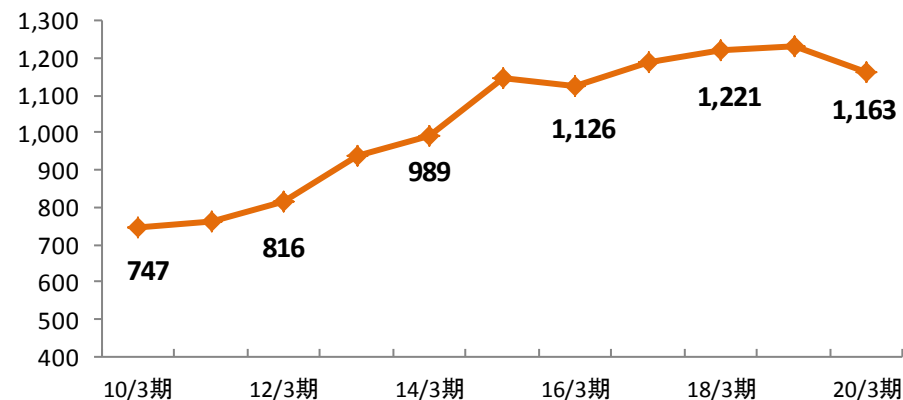
上場(証券コード)	東証1部(8334)
直近株価	367円
売買単位	100株
PER: 株価収益率	7.51倍 (日経平均 22.41倍)
PBR: 株価純資産倍率	0.32倍
配当利回り	3.54% (上場地銀平均3.17%)

- ・直近株価は2020年9月14日終値
- ・PER = 直近株価 ÷ 連結EPS (21年3月期予想)
- ・PBE = 直近株価 ÷ 連結BPS (20年3月実績)
- ・配当利回りは2021年3月期予想(1株当たり年間配当金13円)をもとに算出(9月14日時点)

■ 1株当たり当期純利益 (連結EPS) (単位:円)



■ 1株当たり純資産 (連結BPS) (単位:円)



3. 株主優待制度

- 株主さまへの日頃の感謝の気持ちと、今後もしばらくご支援賜りたい思いを込めて『株主優待』を行っております。
- 優待品をつづいて、地域貢献をはかり、また株主さまに当行の地元や地元生産者を知っていただく良い機会になるとも考えております。

株式購入

1,000株以上が対象

カタログが到着

6月初旬に発送

優待品が到着

8～9月頃到着

<基準日>
毎年3月31日



<対象株主>
株主名簿(基準日時点※)記載の
1,000株以上お持ちの株主さま
※基準日の3営業日前までの購入が必要です。

○株数に応じて3コースご用意

1,000株以上 2,500円相当

5,000株以上 4,000円相当

10,000株以上 6,000円相当



カタログでは豊富に優待品をご用意。
地元(群馬・埼玉・栃木等)の名産品や
地元生産者による一品からお選び頂きます。



※商品の一例



～優待品相当額の寄付も可能～

寄付先: 尾瀬保護財団
群馬県世界遺産
ぐんま絹遺産継承基金



IV. 環境・社会・ガバナンス



1. ESGへの取組み ～SDGs宣言と重点課題～

- 群馬銀行グループは、企業理念に「地域社会の発展を常に考え行動すること これが私たちの事業です」と掲げており、社会・環境課題等のSDGs達成に向け、事業活動を通じて、主体的な取組みを進めたいと考えています。

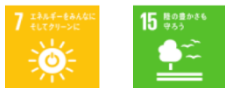
～当行グループ全体のSDGsへの取組みやESG投資家を意識した取組みをステップアップさせるため、2020年6月に「SDGs & ESG統括室」を設置～

重点課題

1. 地域経済の持続的発展



2. 地球環境の保全と創造



3. 多様な人材の活躍推進



4. パートナーシップの推進



具体的な取組み

- 起業支援の充実
- 事業承継課題への網羅的な取組み
- 資産形成層向けを中心としたセミナー開催
- 高校や大学での金融経済教育講義の実施 など
- 再生可能エネルギー向け融資や省エネローン等の取扱
- 「ぐんぎんの森」保全活動の充実
- 群馬銀行環境財団を通じた環境保全活動支援
- タブレット活用やWEB口座によるペーパーレス化推進 など
- 女性専門チーム等女性活躍推進に向けた取組みの充実
- 柔軟な働き方の実現に向けた制度・環境整備 など
- ぐんぎんSDGs私募債取扱いによる啓蒙およびSDGsに資する活動支援
- 地方公共団体等との連携による地域全体でのSDGs推進 など

主な実績

	2017年度	2018年度	2019年度
事業性評価実施 先数	680先	1,058先	1,430先
事業承継支援 先数	309先	1,804先	3,083先
遺言信託・遺産整理 業務受託件数	28件	36件	71件
SDGs私募債等による 寄付	110件 23,472千円	99件 16,513千円	114件 16,408千円

■ 地銀初のグリーンボンドの発行

- ・再生可能エネルギー向け設備等の融資に充当

■ 株主優待「寄付コース」による寄付

- ・群馬県世界遺産、ぐんま絹遺産継承 基金への寄付

■ 各種認定取得

- ・プラチナくるみん、えるぼし3段階目
- ・健康優良法人2020(ホワイト500)

	2017年度	2018年度	2019年度
女性管理職比率	8.5%	10.0%	11.2%

2. ESGへの取り組み ～ 環境(Environment) ～

- 2009年5月に制定・公表した「群馬銀行環境方針・環境行動基準」に基づき、自ら環境負荷の低減に取り組むとともに、設立した環境財団を通じて、環境保全教育にも取り組んでいます。

《環境方針》 群馬銀行は、環境と産業が両立する真に豊かな地域社会の実現をめざしふるさと自然を環境を大切にしていきたいと考えています。環境保全に積極的に取り組み市民として責任ある役割を果たしていきます。

■ 温室効果ガス排出量の削減目標 および紙使用量における削減目標設定

2020.7

《温室効果ガス排出量削減目標》

2025年度	2013年度比23%以上削減
2030年度	2013年度比26%以上削減

《紙(コピー用紙)の使用量削減目標》

2025年度	2013年度比30%の削減
2030年度	2013年度比40%の削減

■ TCFD(気候変動関連財務情報開示 タスクフォース)提言への賛同を表明

2020.7

- 異常気象や大規模な災害等による被害が甚大化する中、気候変動への対応を進めていく動きが広がっている。
- 気候変動のリスクや機会は、企業の財務情報や戦略にも影響を及ぼすため、情報開示の充実が求められている。

2019.11

■ グリーンボンド発行(発行額100億)

《資金使途は以下のとおり》

再生可能エネルギー

環境配慮型私募債

エネルギー効率

クリーンな輸送

グリーンビルディング

■ 「ぐんぎんの森」整備活動

- 群馬県と締結した「県有林整備パートナー事業実施協定」により指定された森林を「ぐんぎんの森」と命名し、その整備・保全活動に取り組んでいる。

■ 環境財団の活動

- 啓発活動 「エコ・キッズ・キャンプ in 赤城山」
「環境探検隊」
- 助成活動 「群馬銀行環境財団教育賞」
「群馬銀行環境財団賞」



3. ESGへの取組み ～ 社会(Social) ～

- 地域の産業や文化の発展と豊かな生活づくりのお役に立ちたい、よき市民でありたいという企業理念の下、地域における文化遺産の保護に加え、芸術・文化・スポーツ活動・金融経済教育の支援に 取り組んでいます。
- また、法人のお客さまの資金調達支援においては、SDGs達成に貢献できる私募債や SDGs達成に貢献する事業を支援する私募債の受託業務を取り扱っています。

社会貢献への取組み

《芸術・文化活動への支援》



- 群馬交響楽団に対して、定期演奏会を協賛するなど、その活動を支援。

《文化遺産の保護活動を支援する投資信託の販売》



- 「富岡製糸場・絹産業遺産群」の保護活動のために寄付を行う投資信託の取扱い。

《スポーツ活動への支援》



- 群馬銀行グリーンウイングスの活動バレーボール教室などを通じて地域社会への貢献活動も積極的に行う。

《金融経済教育への支援》



- 全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」群馬県大会の開催。

バリアフリーへの取組み

《コミュニケーションツールなどの全店配置》

- 「助聴器」「耳マークプレート」「筆談器」などの各種ツールを全営業店窓口に設置。



《遠隔手話通訳サービスの導入》

- タブレットを使用し、テレビ電話形式で手話オペレータが通訳を行う。



《ATMのバリアフリー対応》

- 目の不自由なお客さまやご高齢のお客さまがATMをスムーズにご利用いただけるようハンドセット付ATMを全店に設置。



《その他の取組み》

- 郵送による点字通知サービス
- 点字名刺の使用
- 群馬銀行ホームページに音声読上げ機能搭載 など

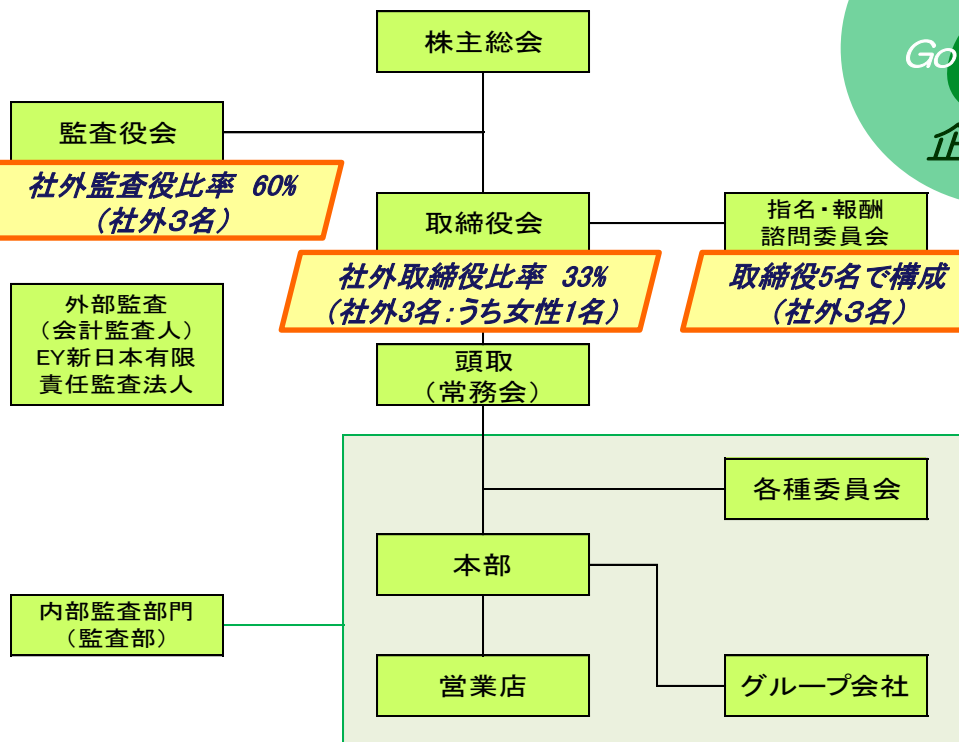


4. ESGへの取組み ～ 企業統治(Governance) ～

- 地域社会の発展を常に念頭に置き、お客さまの金融ニーズに的確に対応するとともに、資産の健全性確保、収益力強化等により企業価値を高め、株主の皆さまや市場から高い評価を得ることを経営の基本方針としております。この基本方針を実現するため、コーポレートガバナンスの充実を経営の最も重要な課題と位置づけ、以下の3点に取り組んでいます。

1. 適正な経営の意思決定と効率的な業務執行体制の構築
2. 健全な経営の基礎となるコンプライアンス態勢とリスク管理態勢の充実
3. 透明性のある経営を目指した企業情報の適時適切な開示と積極的なIR活動

コーポレート・ガバナンス体制



Governance
企業統治

コンプライアンス態勢

- 取締役会をコンプライアンス最高責任機関とし、コンプライアンスに関わる重要事項については、取締役会の委任を受けたコンプライアンス委員会が審議を行っている。

リスク管理態勢

- 取締役会は、リスク管理の重要性を充分認識し、経営方針等を踏まえたリスク管理の方針を決定し、リスク管理を重視する企業風土の醸成に努めている。

ガバナンス強化の取組み

- 《2018年度》 指名・報酬諮問委員会の設置
- 《2019年度》 役員報酬基本方針の策定開示
譲渡制限付株式報酬制度導入
業績連動型株式報酬制度導入

新型コロナウイルス感染症への対応

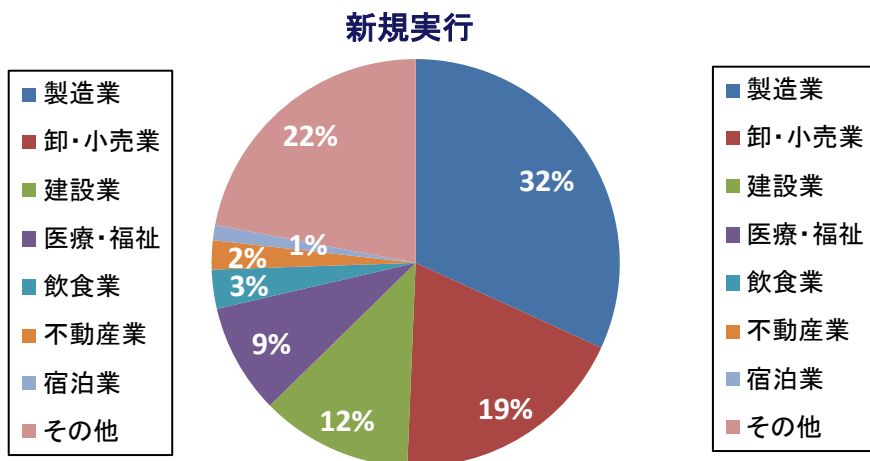
感染防止に努め、お客さまの生活や事業の維持に向けて地域金融機関としての責任を果たします。

■ 新型コロナウイルス関連融資申込み状況 (9月24日現在)

相 談		案件 受付済	融 資 実 行		
新規 融資	16,973先	10,160件	融資先 7,999先	9,982件	2,986億円
			プロパー	774件	1,019億円
			保証協会	9,208件	1,966億円
条件 変更	632先	545件	融資先 648先	1,900件	692億円
			プロパー	1,048件	576億円
			保証協会	852件	116億円

※条件変更の実行件数は対象債権の件数で集計。

■ 業種別の対応状況 (金額ベース割合) (9月24日現在)



■ 感染症に対する取組状況

営業面での取組み

- ☐ Webを活用したお客さま支援
 - ・タブレットによるお客さまとの面談・相談
 - ・Webセミナーの開催
- ☐ 役職員による取引先支援
 - ・県内飲食業の支援
 - 役職員によるテイクアウト商品の購入
 - ・県内温泉地の支援
 - 役職員が前払い式宿泊チケット購入

営業店での取組み

- ☐ 資金繰り相談窓口の設置
- ☐ アクリル板、ビニールシートの設置
- ☐ 座席間隔の確保、消毒液の設置
- ☐ ATMコーナーでの間隔の確保

本部での取組み

- ☐ 業務継続体制の整備
- ☐ 業務フロアの分離
- ☐ 会議の非対面化(電話・Web会議)

[illegible]

本資料には将来の業績に関する記述が含まれております。
こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、
リスクや不確実性を内包するものです。
将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比異なる
可能性があることにご留意下さい。

本件に関するお問合せ先

株式会社群馬銀行 総合企画部 経営管理室(IR担当)

TEL 027-254-7055、7051

(注) 本資料に記載の残高は 原則 表示未満切捨、増減率は 四捨五入しております。